

令和7年度 東京都立石神井特別支援学校 学校経営報告

東京都立石神井特別支援学校長

中島 由美子

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

学習指導	<p>① 個別指導計画及び年間指導計画をツールとして活用し、特性に応じた指導内容の充実を図り、保護者アンケートでは97%の肯定的評価をいただいた。児童・生徒がタブレット端末を利用しやすいよう、情報教育部が中心となって共通の教材開発などを行った。</p> <p>② 理学療法や作業療法、言語聴覚、臨床発達心理、情報教育等に専門性の高い外部人材を年間通じて計画的に活用した。多方面からの助言を授業改善に役立て、児童・生徒の主体的な学びを促進した。</p> <p>③ 東京都の研究指定校事業を活用し図書室の整備を行った。児童・生徒が本に親しみを持てるよう図書室を利用する機会を設定し、POPの作成や地域の図書館との連携による読み聞かせ、食育と図書のコラボなどに取り組み、読書活動の充実が図られた。</p>
生活指導	<p>① 登下校時のスクールバスも含め、組織的に感染症予防対策に取り組んだ。安全・安心な環境構築のもと、集団における緊急時対応訓練等、外部関係者から助言を得ながら様々な安全教育を実施した。</p> <p>② 学校と保護者、スクールバス会社相互間で連携を図り、安全なスクールバスの運行に取り組んだ。</p> <p>③ 将来の自立と社会参加を視野に、一人一人の実態に応じた移動スキルの向上を図り、段階を踏んだきめ細やかな通学訓練指導を行った。</p>
進路指導	<p>① 小学部は校内での就業体験、中学部は外部において見学や就業体験を実施し、小学部段階からキャリア教育を意識した指導を積み上げるようにした。高等部の生徒が来校して清掃の指導体験を実施した。</p> <p>② 保護者向けの進路研修会は、昨年度に引き続き限定配信でオンライン実施した。子供の将来を考え、高等部卒業後の生活をテーマに卒業生やその保護者、社会福祉関係者に講演いただき理解を深めることができた。</p> <p>③ 進路先の2校の高等部の特別支援学校と連携を図り学校見学を実施した。</p>
特別活動	<p>① 「笑顔と学びの体験活動プロジェクト」では外部講師によるダンス教室、デフリンピック全日本空手代表選手を招聘してデフリンピックを応援する体験活動を実施した。体育健康教育推進校としてパリパラリンピックのボッチャの監督・メダリストの指導による体験活動を実施した。音楽鑑賞会や「日本の伝統・文化」での和太鼓の演奏・鑑賞、踊り等の活動により、芸術・文化面における興味・関心の幅を広げた。</p> <p>② 学習発表会は学年ごとに舞台発表を実施した。授業参観週間等を活用して校内展示発表を行った。</p> <p>③ 中学部において新たなSDGsとして、地域の公園と連携した竹の有効活用による環境保全、地域貢献活動に取り組んだ。地域企業の社内環境改善に資する社会貢献活動（児童・生徒の作品を社内展示する取組）は、担当者間の調整がうまく図られず、1回の実施となった。</p>

健康づくり	<p>①医療的ケアや緊急時アレルギー対応訓練等の研修を実施するとともに指導医・学校医に指導・助言を仰ぎながら、安心・安全を確保できるよう組織的に対応した。</p> <p>②療育相談を実施し保護者との共通理解を図った。病院への紹介を行うなど医療へつなぐ契機となった。</p> <p>③学校医や学校薬剤師からの感染症対策も含めた健康に係る指導・助言、情報提供等を活用して、健康教育を進めた。養護教諭や栄養士が円滑に連携した。</p> <p>④年間を通じて図書室掲示と連携した食育の推進、図書を題材にしたコラボ給食を実施した。</p>
センター的機能	<p>①学区域を中心に関係機関と連携して特別支援教育への理解啓発の推進を図った。年7回学校見学会を実施した。</p> <p>②担当主幹教諭と複数のコーディネーターが連携し、学区域の幼稚園、保育園、小・中学校等を訪問し、センター的機能を発揮した。練馬区の保育士研修を2回実施し、18名の現職保育士が本校で実地研修した。</p> <p>③近隣の小・中学校、高等学校や私立の特別支援学校との対面での交流を実施し、同年代の子供同士のつながりを深めることができた。</p>
学校運営 組織体制	<p>①OJTチームによる授業研究を行い、学年や各教科会で協議し意見交換したり、外部専門員を活用したりして指導力の向上を図った。</p> <p>②全教員が、発達段階に応じた教材を作製して発表したり、外部講師を招聘して、校内研究に取り組み、発表会を実施したりして、情報を共有し、組織的に学びを深めながら専門性を高めた。</p> <p>③若手・中堅教員の育成・資質向上研修や校内研究授業等の活用により、教員の授業力の向上を目指して、組織的に取り組んだ。また、デジタルを活用した授業づくりの研修を設定し理解を深めた。</p> <p>◎保護者の学校評価アンケートの回収率は、90.1%であった。年間行事計画に沿って宿泊行事や校外活動、プール指導、学校間交流、就業体験等を実施した。各家庭と連携を図りながら進め、学校評価では、全般的に90%以上の肯定的な評価を得た。</p> <p>①ICT等を利活用し会議運営等の効率化やペーパーレス化を図り、適正な進行管理や業務精選を行った。週案を電子化し、紙文書が削減した。</p> <p>②体罰・いじめ防止研修等を実施し、人権を尊重した指導への意識を醸成した。</p> <p>③学校だよりやSNSによる情報発信を積極的に推進した。</p> <p>④学校における働き方改革プランに基づき、定時退庁日等による計画的業務遂行やライフ・ワーク・バランスの推進に努めた。2年目となったClassi東京都版の活用は保護者との連絡ツールとして有効に機能した。保護者からの欠席連絡やアンケートへの回答、学校からのお便りは、全校、各学年、スクールバスコースごとに限定配信を行った。非常時の連絡手段として、Classiによるメール送信、開封確認訓練を実施した。</p> <p>⑤定期的に産業医と連携を図り、職場環境の改善や教職員の健康管理に努めた。</p> <p>⑥コミュニケーションを密にとるようにし、経営企画室の学校経営参画を推進した。</p> <p>⑦学校施設・設備の点検及び修理を迅速に安全に実施することができた。</p>

(2) 重点目標に関する具体的方策の自己評価

目標や具体的方策	数値目標	評価
1 学びを深める ～児童・生徒の自立と社会参画する力の育成～		
(1) 学習指導		
個別指導計画等における適切な目標設定、アセスメントに基づく効果的な指導方法・内容の充実を図る	個別指導計画作成・活用 100% 授業参観の満足度 80%以上	◎
I C T機器を活用した学習指導、教材作成を行う 児童・生徒が G I G A スクール端末を活用する力を育成する	全教員実施 保護者の満足度 80%	○
各専門分野の外部専門員を効果的に活用し、特性に応じた指導の充実を図る	計画的に年間 750 時間活用	◎
芸術活動、言語活動・読書活動の充実を図る	図書室、地域図書館の利用率向上 P T A との連携による図書整備 4 回	◎
(2) 生活指導		
日常の感染症や熱中症等対策に努め、自ら身を守る教育を推進する 事故等の未然防止と緊急時の対応マニュアルの徹底を図る 避難訓練、防災訓練、緊急時の的確な対応訓練を実施する	ヒヤリハット報告による改善、事故 0 安全点検、注意喚起 (通年) 関係機関連携 7 回以上	△
安全で安心なスクールバスの運行 (全 1 2 コース)	毎日の連絡、スクールバス乗務員研修、 連絡会の実施 (毎月)	○
一人通学練習計画の充実、段階的な訓練の実施	実施者の一人通学指導計画の作成 100%	○
(3) 進路指導		
生活年齢に応じた人との関わり方、意思表示、選択する力の育成	個別指導計画・学校生活支援シート記載・活用、保護者の満足度 80%	○
中学部の就業体験学習、職場見学の充実	中学部 3 年間で 3 回実施	◎
小学部の就業体験学習の充実	小学部 5・6 年生年各 1 回実施	◎
保護者の進路指導についての理解促進	お便り発行 (年 5 回)、保護者進路研修会の実施 (視聴数 200 回以上)	○
(4) 特別活動		
学習発表会での日常の教育活動の成果発表	保護者満足度 80%以上、参観者 300 名	◎
事前・事後学習を活用した宿泊学習、校外活動・遠足の充実	全安全実施	◎
オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを構築し、 体育的、文化・芸術的活動・行事の充実	外部講師招へい 7 回、ボッチャ体験、 芸術鑑賞教室、体験プログラムの実施	◎
(5) 健康づくり		
医療的ケア、食物アレルギー対応等の安全実施。医療的ケア安全委員会・実務研修、アレルギー対応訓練・研修会の実施	指導医からの助言 2 回、アレルギー個別 面談の実施 (希望者全員)	◎
S C や精神科校医を活用した心身の健康づくりの推進	精神科療育相談 10 ケース以上 S C への相談 (随時)	◎

食育の推進、健康増進・体力向上のための取組	食育に係る情報配信（給食だより、図書室掲示）、給食時毎回献立紹介	◎
2 つながり築く ～地域の学校としての使命・貢献～		
(1) センターの機能の発揮 ・幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校等への特別支援教育の推進への支援・助言、巡回訪問の実施 ・近隣校との交流教育・副籍交流の充実 ・放課後活動事業所等との連携、支援会議の実施	要請に応じ実施 連絡会・委員会等への参加（通年）	◎
	学校間交流（各学部2回） 副籍交流（通年・40件）	○
	通年	○
(2) SDGs、社会貢献活動に関する取組の実施、地元企業との連携	保護者、地域、関係機関等と連携した活動の実施、校外への作品展示5回	○
3 組織力を高める ～チーム学校が機能する学校経営、組織の構築～		
(1) 的確な情報共有による教職員の協働の推進、報告・連絡・相談の徹底	通年、教員の満足度80%	○
(2) 専門性の向上 ・主体性を育む国語・算数/数学の授業研究 ・OJTチームによる研究授業、研究協議会の充実、教科会の活用 ・SC、外部専門員（自立活動・心理・発達・情報等）を活用した指導力の向上 ・発達段階に応じた教材・教具に関する研修会実施、共有教材の活用 ・デジタル技術を活用した教育の推進のための教員研修 ・学び続ける教師、自己研鑽の推進	アセスメントを活用した授業実践 外部講師による研修会（3回）	◎
	年次研者の研究授業・協議会3回 全員1回以上研究授業の実施	◎
	教材貸出（通年）夏季教材展	◎
	専門家活用、全体研修会2回以上 適時	○
(3) ライフ・ワーク・バランスの推進 ・主体的な業務遂行の推進。ノー会議デー、定時退勤日、学校閉庁日の設定・促進による計画的業務遂行の推進、時間外の在校時間縮減 ・機能的・効率的なライン化による組織運営、会議運営の効率化と適正な進行管理、校務のDX化、学校評価を活用した組織改善を図る。	ノー会議デー（月2回）、全校定時退勤日（月1回）、My定時退勤日の設定、学校閉庁日（5日）、短縮の設定	◎
	進捗状況の確認・点検（週1回）	○
(4) SNS等による学校広報、効果的な保護者との情報の共有、Classiによる通知文書の電子配布と目的に応じた紙配布を行う。	学校・学年だより、HP、X等による情報発信、200回以上、電子によるアンケート調査回収	◎
(5) 体罰・いじめ・自殺防止研修、情報セキュリティー研修、学校徴収金等の取扱研修、服務事故防止研修の実施	年間5回以上、事故0	◎

(6) 産業医と連携した職場環境点検、教職員の健康管理・メンタルヘルス対策の推進、職員検診・人間ドック受診率の向上	健康相談の実施（毎月） 安全衛生委員会の開催（毎月） 健康診断の受診率 100%	◎
(7) 適正な予算編成と計画的な予算執行の管理	一般需要費の執行率 98%	○
学校施設・設備の計画的な整備	企画調整会議等での確認・実施	◎
4 未来を創る～時代に応じた新しい教育のスタイルへの変革、学級増や改築を見据えた教育・施設～		
教育課程/施設整備プロジェクトチームの設置・運営	進捗報告（月 1 回）	○
週時程と各教科、社会とつながる職業・作業学習の見直し	学部・主幹会議の活用	○
SDGS の推進、社会に開かれた学校としての情報発信	デジタルを活用した発信	◎
ウェルビーイングの向上に向けた取組	通年	○

2 次年度以降の課題と改善策

(1) デジタル機器活用と情報発信の強化

- ア 情報発信においては、学校、学級だよりや SNS 等の工夫を行い、活用事例を積極的かつ継続的に発信していく。
- イ 担当教員の異動左右されない継続可能なコンテンツなどの運用の仕組み作りを行っていく。

(2) 児童・生徒がより安心・安全に学習することができる学校へ

- ア 児童・生徒との適切な関わりや呼称等、人権意識の一層の向上を図り、学校としての「共通の価値観」を構築していく。
- イ 防災・防犯面においては、災害時等への不安が保護者から寄せられているため、保護者会等で繰り返し学校の方針・対応方法を説明していく。

(3) 進路情報の充実と保護者への支援の強化

- ア 小中学校の保護者にとって高等部卒業後の進路はイメージしにくいいため、高等部との連携を生かした進路学習会の開催など、保護者のニーズに応じた情報提供の充実を図っていく。
- イ 卒業後を見据えた長期的な視点を持ち、各学部や学年での進路指導の目標や指標を明確にした教育活動を行っていく。

(4) 学校経営及び組織体制の充実

- ア OJT を活用した組織的な若手教員の育成・中堅教員の資質向上を図っていく。
- イ 各専門分野の支援員や経営企画室職員との連携による円滑な学校運営を進めていく。
- ウ 多様な働き方を尊重しライフ・ワーク・バランスを推進していく。全教職員が時間外の在校時間が 4 時間以内となるよう、業務の精選と業務内容のバランス、役割分担を明確にしていく。
- エ 今後の学級増を見越した教室や職員室の環境整備、改築に向けた学校施設・設備への実施計画を行う。

【令和 7 年度学校評価アンケート結果】

1 アンケート対象と実施方法

名称	対象者	回答率	実施方法
本人評価	全児童・生徒	284名中280名が回答 (回答率：98.6%)	紙文書(イラスト入)
校内評価	全教職員	105名中105名が回答 (回答率：100%)	Forms(オンライン)
学校関係者評価	全保護者	282家庭中254家庭が回答 (回答率：90.1%) (Classiによる回答77.7%)	Forms(オンライン) もしくは紙文書によるアンケート
第三者評価	学校運営連絡協議会委員 (※以降、学運協とする)	対象者7名中7名が回答 (回答率：100%)	Forms(オンライン) もしくは紙文書によるアンケート

2 アンケート結果(一部項目より)

「A:とてもそう思う」「B:そう思う」「C:どちらともいえない」「D:あまりそう思わない」
「E:そう思わない」「?・空欄:分からない」

設問	質問項目	%	A	B	C	D	E	?
1	お子さんを学校へ安心して送り出すことができる。	保護者	80	16	2	1	0	0
2	健やかな心と身体を培うための教育ができています。	保護者	77	20	2	1	0	0
		内部	40	53	5	0	0	1
		外部	71	29	0	0	0	0
3	意欲的に活動するための教育ができています。	保護者	70	25	4	1	0	0
		内部	40	53	5	1	0	1
		外部	57	29	0	14	0	0
4	自ら考え、表現し、行動するための教育ができています。	保護者	63	31	4	2	0	0
		内部	30	60	8	0	1	1
		外部	43	43	14	0	0	0
5	豊かな人間関係を築くための教育ができています。	保護者	65	26	7	1	0	1
		内部	36	53	9	0	1	1
		外部	71	14	0	14	0	0
6	児童・生徒一人一人に対して、障害や特性に応じた指導がなされている。	保護者	70	24	5	1	0	0
		内部	35	54	10	0	0	0
		外部	71	29	0	0	0	0
7	教職員は、児童・生徒への接し方、指導の仕方、言葉遣い、名前の呼び方などで、人権を尊重した適切な関わり方をしている。	保護者	80	16	2	1	0	0
		内部	27	50	17	4	2	0
		外部	57	43	0	0	0	0
8	個別指導計画、学校生活支援シート等の作成にあたっては、担任と十分に話し合いができ、保護者の願いが生か	保護者	78	19	2	0	0	0
		内部	35	50	15	9	0	0

	されている。また、個別指導計画は、指導に活かされている。	外部	14	43	28	0	0	14
9	授業は、児童・生徒が興味・関心をもって学習できるように教材・教具や指導方法を工夫した指導を進めている。	保護者	76	21	2	0	0	0
		内部	36	56	7	1	0	0
		外部	57	29	0	0	14	0
10	学校は児童・生徒にとって分かりやすい授業を行うために、GIGA スクール端末を活用した教育活動を適切に実施している。	保護者	61	26	7	1	1	5
		内部	35	46	17	1	0	0
		外部	43	29	14	14	0	0
11	日常の安全対策・安全指導が適切に行われている。	保護者	71	24	2	0	1	1
		内部	38	54	5	2	0	0
		外部	57	14	14	0	0	14
12	突発的な災害や事故への対応、準備、取組が十分なされている。	保護者	69	24	5	0	1	1
		内部	39	51	7	2	0	0
		外部	57	14	14	0	0	14
13	将来に向けた学習や生活に関する情報が、適切に提供されている。	保護者	52	37	7	1	1	2
		内部	23	57	17	0	0	3
		外部	29	57	0	14	0	0
14	学校はお子さんが自分の意思を示したり、自ら選択したりする意欲を引き出す指導をしている。	保護者	58	31	6	1	0	4
		内部	26	61	9	0	1	3
		外部	57	29	0	0	14	0
15	学校での活動等を生かし、家庭でお手伝いや身の回りのことなどに取り組ませたいと感じている。	保護者	59	31	8	0	0	1
16	家庭と担任等との連携が密にとれ、教員は相談事や悩みに適切に応じている。	保護者	76	18	4	1	0	0
		内部	44	50	3	1	0	1
17	学校は教育活動について、学校だより、学年だより、保護者会等を通じて分かりやすく伝えている。	保護者	71	26	2	0	0	0
		内部	43	50	5	0	0	1
		外部	71	14	14	0	0	0
18	保護者の方がお子さんの様子や教育活動を理解する機会は適切に設定されている。	保護者	64	29	6	1	0	0
		内部	36	59	7	5	0	0
19	本校の「ホームページ」を見たことがある。	保護者	はい 87%			いいえ 13%		
		外部	はい 57%			いいえ 43%		
20	本校の「X (旧 Twitter)」を見たことがある。	保護者	はい 50%			いいえ 50%		
		外部	はい 43%			いいえ 57%		
21	学校の施設や設備は整備され、清掃が行き届いている。	保護者	56	37	5	1	1	0
		内部	21	37	27	10	4	0
		外部	43	28	29	0	0	0

22	教職員は協力し教育活動に取り組み、授業力の向上や専門性の向上に努めている。	保護者	75	20	2	1	0	2
		内部	38	55	6	1	0	0
		外部	57	29	14	0	0	0
23	電話や窓口での対応は、適切である。	保護者	72	24	1	0	1	1
		内部	45	49	3	0	0	2
		外部	57	14	29	0	0	0

児童・生徒による学校評価結果

設問		実施人数	実施率	回答実数				肯定率
				はい	いいえ	どちらでもない	判別できず	
1	学校は楽しいですか？	小低 119	99%	87	1	20	11	73.1%
		小高 87	98%	80	0	0	8	92.0%
		中 74	99%	64	3	1	5	86.5%
		全校 280	99%	231	4	21	24	82.5%
2	学校では、友達と勉強したり遊んだりしていますか？	小低 119	99%	88	2	19	10	73.9%
		小高 87	98%	82	0	0	6	94.3%
		中 74	99%	58	7	3	5	78.4%
		全校 280	99%	228	9	22	21	81.4%
3	好きな先生はいますか？	小低 119	99%	76	3	29	11	63.9%
		小高 87	98%	80	1	0	6	92.0%
		中 74	99%	60	6	2	5	81.1%
		全校 280	99%	216	10	31	22	77.1%
4	給食はおいしいですか？	小低 119	99%	76	2	24	11	63.9%
		小高 87	98%	80	2	0	5	92.0%
		中 74	99%	66	2	1	4	89.2%
		全校 280	99%	222	6	25	20	79.3%
5	好きな授業はありますか？	小低 119	99%	100	2	0	5	84.0%
		小高 87	98%	74	0	0	1	85.1%
		中 74	99%	73	1	0	0	98.6%
		全校 280	99%	247	3	0	6	88.2%

絵・写真カード、タブレット端末など、児童・生徒の実態に合わせた支援ツールを用い、児童・生徒の意思を反映できるように質問や回答の仕方を工夫した。また、指差しや表情の変化などの見取りによる回答を反映した。回答ができない、行動の様子からは判断できない場合は「判別できず」として集約した。